

平成 29 年度
全国学力・学習状況調査の分析と考察

— 目 次 —

| | | |
|---|----------------------|------------------|
| 1 | 概要 | |
| 2 | 各教科に関する分析と考察 | |
| | 小学校 国語 | ・ ・ ・ ・ ・ P 1 ~ |
| | 小学校 算数 | ・ ・ ・ ・ ・ P 3 ~ |
| | 中学校 国語 | ・ ・ ・ ・ ・ P 5 ~ |
| | 中学校 数学 | ・ ・ ・ ・ ・ P 7 ~ |
| 3 | 生活習慣等に関する質問紙調査の分析と考察 | |
| | 小学校 | ・ ・ ・ ・ ・ P 9 ~ |
| | 中学校 | ・ ・ ・ ・ ・ P 11 ~ |

- 概要の「教科に関する調査結果の概要」では、平均正答率が 9 割程度、もしくは 9 割を上回っている問題や領域を「相当数の児童生徒ができています」という表現を使っています。
- 各教科の「全体考察」では、領域別に成果と課題、指導の方向を示しました。
(◇は成果に関する事項、◆は課題に関する事項)
- 各教科の「問題ごとの考察」では、特に課題と思われる問題を A、B からそれぞれ取り上げ、「調査問題」「学習・指導の状況」「指導改善に向けて」の項目で授業改善の具体的な方向を示しました。
- * 表記については、長野県や全国の平均正答率も参考にしながら、平均正答率 8 割程度を基準に「定着している」「身に付いている」、6 割以下を「課題がある」としました。
- 生活習慣等に関する質問紙調査については、分析・考察からその特徴をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。
(例：全国が 30%、松本市 40% の場合、松本市は全国を「10 ポイント上回る」と表現しています。) また、数字は小数点第一位を四捨五入しています。
- 本調査は、国語、算数・数学の 2 教科のみであるため、必ずしも学習指導要領全体を網羅しているものではありません。よって、本調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部であることにご留意ください。

(平成 29 年 12 月)

松 本 市 教 育 委 員 会
松本市校長会学力調査検討委員会

「平成 29 年度 全国学力・学習状況調査の分析と考察」の概要について

松本市教育委員会
松本市校長会学力調査検討委員会

1 趣旨

本年 4 月に実施した「平成 29 年度全国学力・学習状況調査の分析と考察」における松本市の結果について、調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

2 調査の概要

(1) 調査の内容

ア 教科に関する調査

A：主として「知識」に関する問題〔国語 A、算数・数学 A〕

B：主として「活用」に関する問題〔国語 B、算数・数学 B〕

イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

(2) 調査期日

平成 29 年 4 月 18 日（火曜日）

3 結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の概要

松本市全体の傾向として、領域等の平均正答率の状況から、すべての教科・領域で、バランスよく正答している様子が見取れます。また、すべての教科において、長野県（公立）及び全国（公立）の平均正答率とほぼ同程度となっています。国語、算数・数学の「活用」に関する問題では、全体的に正答率が低い傾向が見られます。

本年度の結果から見られる各教科の主な傾向については、次のとおりです。

小学校
国語

- ▶ **成果** ことわざの意味の理解や、漢字を正しく読むことについては、相当数の児童ができています。「月の様子」を詠んだ俳句の情景を考える問題では、表現の特徴、情景や季節感を捉えることができています。「お礼の手紙」を書く問題では、事実と感想、意見などを区別し、内容の中心を明確にすることができています。
- ▶ **課題** 「折り紙の魅力を外国の人たちに伝える」問題では、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題があります。スピーチの練習場面では、自分の考えを明確にし、スピーチの構成と内容を基にメモを作成することや、聞き手の反応や助言を参考に自分のスピーチを見直し、改善点を検討するなどの学習が効果的です。

小学校
算数

- ▶ **成果** 二つの数量の関係や、小数の乗法の計算における乗法の性質の理解については、相当数の児童ができています。また、立方体の面と面の位置関係の理解が定着しており、示された条件を基に、適切な式を立てることや、外れ値を除いた場合の平均を求める式を判断することについてもおおむね身に付いています。
- ▶ **課題** 資料を二つの観点から分類整理し、目的に応じて二次元表につくり直したり、二次元表と対応させて考えたりすることに課題があります。日常生活の問題の解決のために、目的を明確にし、その目的に応じて収集した資料を分類整理したり、表やグラフなどに表現したりすることが、事象の特徴や傾向を捉え、適切な判断をする上で有効です。特に二次元表の理解を深めていくためにも、資料を必要感をもって二次元表につくり直す活動が大切です。

中学校
国語

- ▶ **成果** 文脈に即して漢字を正しく読むことや、助詞の働きの理解は、相当数の生徒ができています。目的に応じて資料を効果的に活用して話すことが定着しており、漢字を書くこともおおむね定着しています。日々の家庭学習の取り組みや、話し合い活動における話し方の工夫、資料の効果的な活用などの成果が表れています。
- ▶ **課題** 楷書と行書との違いや、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では、点画

や随筆の意味等、選択肢に含まれる語句の意味を正しく理解しておく必要があります。また、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことでは、無回答も多くありましたが、取り上げた場面や描写を的確に把握し、感じたことや考えたことを具体的に説明する学習を進めていくことが効果的です。

- ▶ **成果** 実生活の場面で、ある数量が正・負の数で表されること、平行移動、円錐が回転体としてどのように構成されるかの理解については、相当数の生徒ができています。資料の活用では、与えられた情報から必要な情報を選択し、適切と判断した代表値を用いて解釈することについて、おおむね身に付いています。
- ▶ **課題** 扇形の弧の長さを求めること、関数の意味の理解について課題があり、無解答も多い結果でした。特に、記述式問題では、根拠を明確にすること、数学的な表現を用いて説明することに課題があります。式が何を表しているのかを読み取ることや、問題解決のための方法を説明する際に、「用いるもの」とその「使い方」の両方を意識して的確に説明する活動が大切です。

(2) 質問紙調査に関する状況

- ア 小中学生に共通する傾向として、「地域への関心の高さ」が例年までと同様に挙げられます。「地域の行事に参加している」に肯定的な回答を示した小学生は9割いました。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」「地域社会などでボランティア活動に参加した」中学生が年々多くなっています。
- イ 「読書は好きですか」の問いに、好き、または好きな方であると答えた小学生は8割、中学生は7割後半で、いずれも全国平均より高く、読書好きの傾向がうかがえます。
- ウ 携帯電話やスマートフォンの所持率が増加し、所持している小学生は5割、中学生も7割をそれぞれ超えました。
- エ 平成29年度新規項目に加わった中学校の部活動の状況では、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり、2時間以上3時間より少ない時間、部活動をしている生徒の割合は4割と最も高く、1時間以上2時間より少ない時間と回答した割合は2割後半とその次に高い状況でした。また、部活動に参加していない生徒の割合はおよそ2割でした。

4 学力状況と相関関係のあった項目で今後大事に取り組みたいこと

- (1) 家庭学習について、予習・復習をする児童生徒ほど、国語や算数・数学の正答率が高い傾向があります。また、家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒も同様のことがいえます。自らの課題を明確にし、計画性をもって、改善しよう、力を伸ばしていこうとする態度が大切です。
- (2) 「総合的な学習の時間」では、自ら課題を立て、情報を収集、整理し、調べたことを発表するなどの学習活動の取り組みと平均正答率との相関関係はあるといえます。しかし、取り組みの状況は、経年変化分析調査では向上してきているものの、全国（公立）と比較すると差が見られ、低い状況にあります。今後は、総合的な学習の時間も含め様々な教科を通して、児童生徒の疑問や問いを授業に活かし、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に、より一層努めていくことが大切であると考えられます。

5 今後の対応

- (1) 各市立小中学校では、12月初旬までを目途に、他の客観的な評価テスト等も参考にしながら、児童生徒の学力及び学習状況並びに今後の具体的な方策について保護者や地域に公表する予定です。
- (2) 学校指導課では、全市の分析・考察結果をもとに、各学校の成果や課題を持ち寄って、次年度に向けての具体的な方策を検討する研修会を開催するなど、各校の更なる学力向上に向けた検証・改善サイクルの構築を支援していきます。